様式第２（第９条[redacted]

政[redacted]書

4年　7月　1日

犬山市議会

議長　三浦　知里　様

議員名　鈴木　伸太郎　㊞

下記のとおり、　出張　の成果を報告いたします。

(1) 年月日	4年　6月　30日(木)
(2) 場所	東京ビッグサイト・農林水産省
(3) 形態	会派（無会派　鈴木　）：その他（　　）
(4)内容	別紙
(5)成果・提言	別紙

犬山市議会
受付
4.7.-1

出張報告　令和４年６月30日（木）

○自治体公共WEEK（東京ビッグサイト）

自治体運営に関する製品、サービスの展示会。同時開催でｅスポーツの展示会も開催されており、それぞれ情報収集を行った。

ここ数年は「ＤＸ導入」そのものに特化した展示が多かったが、今回はDXを活用して、今までできなかった行政サービスを提供する製品が増え、私がこの類の展示会に足を運び始めたころのような多様性、多角性を感じた。

・通訳サービス

タブレットを活用して、コールセンターのオペレーターが外国語⇔日本語の通訳をするサービス。観光では以前から存在したが、学校、行政機関の窓口での対応ができるようになってきた。犬山は市役所に数名の通訳サービスをする職員がいるが、保健センターや高齢者支援センターなどにはいない。先日の一般質問で、そのような施設の外国人対応を指摘したが、このサービスはその課題を解決できる可能性がある。

学校での利活用も当然視野に入る。今後、多文化共生がすすみ、言語の課題は従来の数か国語ではすまなくなる。本来ならば、フェイスtoフェイスで子供と向き合うべきではあるが、このようなサービスを利用しないと課題をクリアできていかなくなると想定する。

・ギネス世界記録

自治体は、日本初、県内初など、各種サービスで話題性を重要視する風潮を感じる。

ギネスは自治体というより、町おこし、地域コミュニケーションづくりに生かせる。

メディアも食いつきやすい。｛

キワモノ｝感はあるものの、鵜飼い、ワカサギなどの観光資源、明治村、犬山城などの文化資源、入鹿池や入鹿用水など、他都市にはない犬山独自の資源をＰＲしつつ、それを市民が再認識し、犬山の「本物感」を地域住民に根付かせるきっかけづくりになると考える。

このようなサービスは地域住民が主役、地域住民が足元の「宝」を再認識することが大切。

そこは取り違えることがないようにすすめていきたい。

・災害対策用トイレ

今回は災害時のトイレの進化、省コスト化を目指すブースがいくつか見られた。災害時に限らず、公園やハイキングコースなど、自然環境に配慮する必要のある場所にも設置できるトイレは、排せつ物の浄化問題や維持管理問題に、再エネやIOTの自術を盛り込んで進化している。コストはまだまだ高いが、各メーカーの開発が進めば価格も落ちてきて汎用性も高まると想定する。将来、犬山のハイキングコースの再整備の際は、特に女性へ向けたアピールポイントとして、このようなトイレの導入を提案していきたい。

・学校（教員）支援

教員が配布する保護者への連絡用プリント、子供たちとのコミュニケーション用プリントなどのデジタル化で、教員の多忙化を軽減するサービス。印刷物のデジタル化の他にも、欠席連絡、保護者への個別連絡、簡易アンケートなどでも活用できる。企業広告を画面に掲載し、広告収入の一部をベルマークのように教材や備品呼応入費用に充てるシステムもある。小牧市が導入済み。

・福祉系送迎サービスの統合

介護サービスへの送迎の車、買い物支援の車、食事の宅配の車、医療機関送迎の車、塾の送迎の車など、従来はそれぞれの事業者がそれぞれの車を回しているが、それをまとめて効率的に運用するサービス。開発事業者は、事前調査・シミュレーション・実証実験など運用面と、ドライバー研修・介護施設や交通事業者等との交渉・福祉タクシーの活用支援等のサポート面を提供する。実際の運用は市もしくは社協などの福祉サービス実施団体。まだ動き始めて間もないサービスだが、非常に良いと感じる。高コスト体質のコミュニティバスの課題解決にも寄与する。香川県三豊市で事業が始まっており、ぜひ現場で学び、将来犬山でも運用されるよう提案していきたい。

・有機農産物

国は2050年までに農業生産物の25%を有機に変えると表明しているが、疑問に思う。しかし、有機に取り組み企業、団体、個人は増え続けている。学校給食に地元産有機農産物を導入する自治体が増えており、犬山市でも事例があった。

「有機」は本当に良いのか？という検証がされないまま、「有機」という言葉が独り歩きしており、現場の実態、ルール作りはそれについていっていないと実感している。今回、有機農業関連のブースは１社のみであったが、こちらはしっかりとした活動をされており、前述した現状の課題も認識されている様子であった。自治体から有機農産物推進事業の委託を受けており、自治体と有機農家、農家を育成・マッチングする企業、それらを取り巻く業界の動き等、マーケティングブランディングも含め、今後もしっかり見極めていくことが極めて重要。

・その他、再生エネルギー・乗り換えソフトの自治体での利用ほか、バラエティに富んだ提案サービスがあり、勉強になった。

○食料・農業白書の概要についての説明会

農林水産省が発表した令和３年度の白書についての説明会に参加した。

国および農林水産省が、今後の我が国の食料に関する課題をどうとらえ、解決に向けた方向性を探る機会となった。愛知県も犬山市もこの流れ、方針の基で各種農業政策を練っていくものと思われるが、単純に右に倣えではなく、「犬山の状況に併せた政策」を構築できるかが重要、柔軟性が求められる。

・食料の安定供給については、コロナに続いてウクライナ問題で揺れ動く中、「みどりの食料システム戦力」に基づく取り組みが稼働、温室効果ガス対策・環境保全・食品ロス対策・輸入量の確保の課題を「持続可能な食料システム」構築でクリアしていく。

・輸出を促進していく方針、犬山は国際空港へのアクセスが良好、朝収穫した桃などの産品を、翌日午後にアジアの主要都市の高級食材を扱う店の店頭に並べることも不可能ではない。が、そのような動きは無い。そろそろチャレンジする農家の育成が望まれる。

・国産原料による６次化を推進。犬山では、桃、みかんなどは進行中、それらを推進するとともに、主要な作物である米をいかに活用するかの考察が求められる。

・「半農半Ｘ」など、農業従事者の多様化推進。犬山の場合、半農半Ｘよりも、離農してしまった兼業農家の子どもを帰農させるほうが現実的。

・規模拡大の推進。規模拡大は否定しないが、犬山の場合、現状、面積も従事者数も圧倒的に多い小農家と、面積が狭い畑をどのように維持していくかが課題だと思う。

グローバルな視点が多かったが、国の勧めようとする農業政策は見ることが出来た。その中で犬山の農地を、誰がどのように、どれだけ、どうやって維持していくかのビジョンづくりを提案していきたい。

当初、２日間での出張予定であったが、先方との調整がつかない等の理由で、日帰りとした。

以上